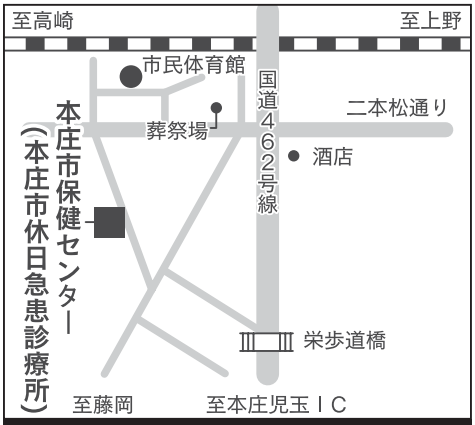
みんなのけんこうガイド

すくすく元気！
コアラクラス

児玉保健センター　☎㉒5540



本庄市保健センター　☎㉔2003

●乳幼児健康診査・健康相談　【受付時間】★印･･･午後１時～１時30分、☆印･･･午前９時30分～ 10時
＊対象者には通知します。

内　容	対象となる人（お住まいの地域）	日　程	会　場
★３～４か月児健康診査	平成19年８月生まれ（本庄地域）	12月20日㈭	本庄市保健センター
	＊児玉地域にお住まいのお子さんについては１月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター
☆９～10か月児健康相談	平成19年２月生まれ（市内全域）	12月20日㈭	本庄市保健センター
★１歳６か月児健康診査	平成18年５月生まれ（本庄地域）	12月19日㈬	本庄市保健センター
	＊児玉地域にお住まいのお子さんについては１月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター
☆２歳児健康相談	平成17年11月生まれ（市内全域）	12月18日㈫	本庄市保健センター
★３歳児健康診査	平成16年11月生まれ（本庄地域）	12月18日㈫	本庄市保健センター
	＊児玉地域にお住まいのお子さんについては１月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター

●相談・学級　【会場】児玉保健センター
＊電話による育児相談は、各保健センターで随時受け付けています。お気軽にご相談ください。

内　容	対象となる人	日　時	その他
すくすく相談 （育児・栄養相談、計測）	相談・計測希望の人	12月13日㈭ 午前９時30分～ 11時	前日までに電話予約してください。
コアラクラス （育児学級）	２～３か月児とその保護者	12月６日㈭・１月10日㈭ 午前10時～ 11時30分	対象者に通知します。
カンガルー広場 （情報交換・友達づくりの場）	０～２歳児とその保護者	12月３日㈪・１月７日㈪ 午前９時30分～正午	おやつの持ち込みはできません。
おや親タマゴ（全４回）	これからママ・パパになる人	12月７日㈮・11日㈫・19日㈬・22日㈯ 午前９時30分～正午	先着20組。事前に電話予約してください。22日㈯はできるだけご夫婦で参加してください。
わんぱくツインズくらぶ （情報交換・友達づくりの場）	多胎児とその保護者	１月18日㈮ 午前10時30分～正午	多胎児を妊娠中の人も歓迎。

『あなたの食事、大丈夫!?』を開催

情報番組に振り回されがちなあなた、食事について、いっしょに考えてみませんか。
日時　１月18日㈮　午後１時30分～３時30分
会場　本庄市保健センター
対象　おおむね30 ～ 64歳の市内在住者
定員　20人（先着順）
申込　12月10日㈪から１月10日㈭までに本庄市保健センターへ

●ＢＣＧ予防接種　【受付時間】午後１時～１時30分
＊対象者には通知します。接種可能な月齢（６か月未満）を過ぎても接種していない場合はお問い合わせください。

対象となる人 （お住まいの地域）	日　程	会　場
平成19年９月生まれ（本庄地域） 平成19年10月生まれ（本庄地域）	12月５日㈬ １月９日㈬	本庄市保健センター
平成19年９月生まれ（児玉地域） 平成19年10月生まれ（児玉地域）	12月11日㈫ １月11日㈮	児玉保健センター

ご覧ください。（お持ちでない人は保健センターまで）

医療メモ

本庄市児玉郡医師会広報部

日常生活で発生する動物や昆虫などによる刺・咬傷について

動物や昆虫などによる刺・咬傷は、日常生活で比較的発生しやすい傷病ですが、今回はその中でも特に発生頻度の高いものについて、その特徴と対処法等について紹介します。

①イヌ咬傷

イヌ咬傷で問題とされてきたのは、狂犬病の発生です。日本国内では1957年以来、狂犬病発生の報告はなく撲滅されたものと考えられていますが、海外特に東南アジアなどの発展途上国ではいまだに流行していて、イヌだけではなくネコ、ネズミ、コウモリ、タヌキ、キツネなどからの感染例も報告されています。狂犬病は発症すると死亡率も非常に高いため、それらの地域に旅行をする場合には、事前に予防接種を受けておくなどの注意が必要となります。

国内でのイヌ咬傷後に注意すべき点としては、破傷風と細菌感染が中心となります。特にイヌの口腔内には種々雑多な細菌が存在していて、受傷後に傷が治癒するまでに時間を要することが多いため、安易な考えで家庭内での消毒のみで済ますのではなく、ただちに最寄りの医療機関で適切な処置を受けると同時に予防として、破傷風トキソイドの摂取を受けることが望ましいと考えます。【一般的に、どのような傷でも傷口から細菌等が侵入して感染が成立するまでの時間を『感染成立までのゴールデンタイム』と呼び、具体的には受傷後6（～8）時間以内に専門の機関で適切な処置を受けることが感染を予防するうえで大切であるとされています。】

②ハチ刺傷

スズメバチ、クマバチ、アシナガバチ、ミツバチなどによる刺傷があり、多くは局所症状のみで軽快しますが、注意を要するのは以前に感作（同系のハチに刺されていること）している場合のアナフィラキシーショックの発生です。即時型のアナフィラキシー症状は受傷後30分以内に出現し、発赤がほぼ全身におよび、嘔気・嘔吐さらに胸部の絞扼感・呼吸困難などが起こり、最終的には血圧低下・意識障害をきたすため、刺された場合はただちに患部を水や氷で冷やし、すぐに最寄りの医療機関を受診することがアナフィラキシーショック発生時に救命処置を行うためにも望ましいと考えられます。昔からの民間療法として、患部にアンモニアを塗布することが有効と考えられていましたが、現在ではその効能は疑問視されているため、たとえ症状が軽くても、アレルギー反応を防ぐ（ハチは〝最後の一刺し〟で針を皮膚内に残していき、そこから持続的に毒素が排出され、なかなか発赤・腫脹が治癒しない原因となるので、その針を早期に排出することも大切です。）ためにも、早期に医療機関を受診し、症状に合わせた適切な処置を受けることが最良と考えられます。

③ヘビ咬傷

毒ヘビに関しては、さまざまなヘビが存在するため、ここでは特に、身近な地域でも見られるマムシによる咬傷について紹介します。

マムシ咬傷は初夏から秋の夕方に受傷することが多く、毒牙の側孔から毒液を注入されることで、循環血液量の減少によるショック症状や溶血毒による急性の腎機能・肝機能障害を引き起こし、死に至る場合があります。救急処置として、咬部の中枢側（心臓に近い方）を布等できつく縛る、口腔内に傷がなければ、口で毒液を吸い出し、唾液といっしょに吐き出す、ということがあげられます。（また、咬部周辺を氷で冷やすと毒素の活性を弱める効果があります。）

救急処置後はただちに、最寄りの医療機関に搬送し、抗生物質・破傷風トキソイドの投与・接種を行います。（受傷後6時間以内であれば、抗毒素血清療法を考慮する場合がありますが、抗毒素血清には血清病の危険性が伴うため、現在では重症例のみに投与されることが多く、中等症・軽症例であれば抗毒素血清を使用せずに治療を行うことも可能となっています。）

＜まとめ＞

動物や昆虫などによる刺・咬傷では、特にハチによるアナフィラキシーショックやヘビ毒による循環血液量減少性ショックが致命的であり、救急蘇生（そせい）を要します。その他の刺・咬傷では、全身管理を要することは少ないのですが、局所感染および破傷風感染対策のために、受傷後6（～8）時間（『感染成立までのゴールデンタイム』）以内に傷の大きさにかかわらず、最寄りの医療機関を必ず受診し、適切な処置を受けることが望ましいと考えられます。

『平成19年度けんこうカレンダー』も